

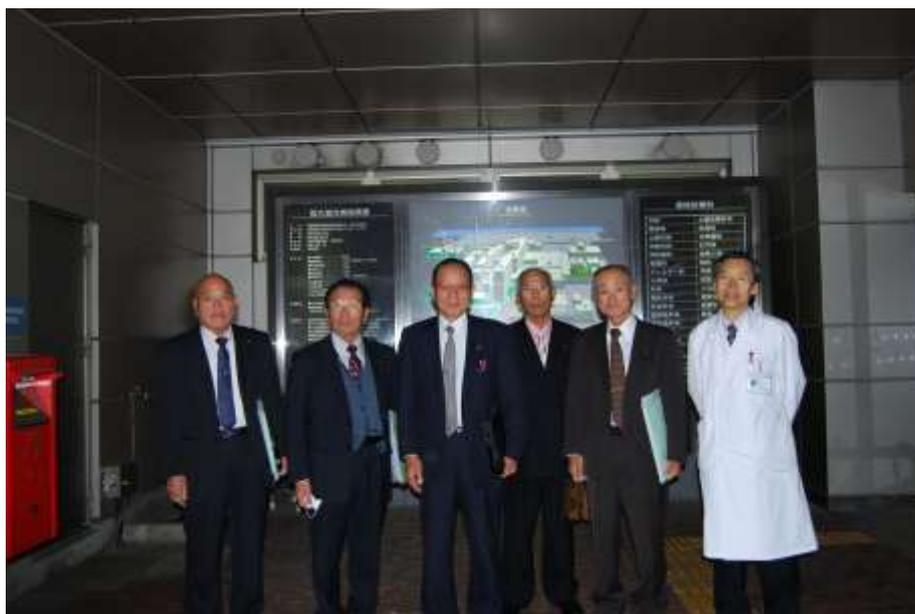
文教福祉常任委員会研修報告

文教福祉常任委員会では11月26日～27日に長野県佐久市にある厚生連佐久総合病院における地域医療活動と諏訪市における子育て支援の取り組みについて視察研修をして参りましたのでその概要を報告いたします。

J A 佐久総合病院は病床数が附属分院を含め1214床と大規模な病院であり、高度専門医療と地域密着医療の部門が両立されているのが特徴です。各地にある国保診療所に常勤医師を派遣し、包括支援センターや複数の訪問看護ステーションとの連携を図り訪問診療、訪問看護も充実しています。高度医療を担う本院と行政や福祉施設、住民組織とともに地域密着型の小回りの効いた医療を担うサテライト、重層的多層的なネットワークで地域の保健医療福祉を支えています。また、東日本の病院では初のドクターヘリを所有し緊急患者の対応に当たっており、まさに医療活動の先端を行っていることに感銘しました。

翌日は諏訪市役所において諏訪市における子育て支援の取り組みについて研修いたしました。諏訪市は精密機器、電機産業の企業が多く立地し、女性労働者の進出も多く子育て環境の整備が急務とされていたこともあり、NPO法人の運営する「すわ子育て支援ネットワーク“ぷりん”」を核としたファミリーサポートセンター事業を取り入れました。これは、子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かりや送迎等の援助を受けることを希望する者（お願い会員）と、有料でその援助を行うことを希望する者（まかせて会員）とのネットワークを構築するという事業です。また、このほかにも、病児・病後児の預かり保育を行っているなど各施策から子供を生み、育てる環境づくりが確立されていることが伺え大変参考になりました。

文教福祉常任委員会 委員長 板橋邦夫



佐久総合病院玄関前で副院長と